

皆さん、おはようございます。

令和7年度2学期の始業式は「この世界の片隅に」のお話から始めてみます。

皆さんは「この世界の片隅に」と聞くと皆さんの先輩でもある、この史代さんのイラスト、それは校長室のすぐ近くにかけてありますが、また今年もテレビで放送されていた映画の一コマなどの印象があるでしょうか。東雲中で学ばれたこのさんは色々な場で、中学生の頃から漫画を描き始め、「漫画があれば何もいない」、「生きがいとはこのことだ」と気付き、その後も漫画の題材を見つけるために、広島大学に進学されたお話をされています。

このさんがここ東雲中での中学時代から漫画を描き始めて、「漫画があれば何もいない」と思われながらも、高校時代は美術部とかけもちで科学部の部長もされていたそうです。それは雨ニモマケズの宮沢賢治さんのことを私の初恋とも言われているように、宮沢賢治さんの自然観や世界観にも触発を受けて、広島大学では理学部へと進まれています。この時に、このさんは「もう一つ別の好きなものを見つけて仕事にして、それを漫画で表現する人になれば」と思われてもいたようですが、その後に広島大学は中退をされて漫画の道に邁進されることにもなります。

いま皆さんの中で「〇〇があれば何もいない」、「生きがいとはこのことだ」というものを既に宿してくれている人もいるかと思います。一方で、そんなことはまだ全く見えてこないという人も少なくはないはずです。

ちょうどいまアンパンマンを生み出されたやなせたかしさんを取り上げているテレビドラマが進行中です。アンパンマンを知らない人はほぼいないでしょうが、「手のひらを太陽に」の歌も同じように知らない人は少ないと思います。この歌もやなせたかしさんが手がけられた作品ですが、アンパンマンが誕生する10年以上前に漫画がまだうまくいかない中で作詞をされたり、またいまも続くデパートの三越の包装紙のロゴをデザインされたりなどの経験があつてこそ、その後のアンパンマンが誕生するに至ったのだと考えられます。

いま皆さんは、まだこの世界の片隅の中の一人の中学生でしかないのかもしれませんが、でも、この世界の片隅の中での色々な一つ一つの経験や体験があつてこそ、やなせさんや皆さんの先輩でもあるこのさんのように後々に大きな花を咲かせることにもつながっていくことを見据えてほしいと願っています。

最後に校長室のすぐ近くにかかっているこのさんのイラストの中には「こころに花を」との言葉が添えられています。皆さんが今後どんな花を開花させていくのか、いけるのか、これからの二学期の一つ一つの行動や活動を大事に皆さん自身の手のひらを太陽にかざしたりしながら、その手と心をつなげていきましょう。